

## 〔 特 集 〕

# 子どもの「学びにくさ」を理解する ～学習障害（LD）だけじゃない！～

しばしば「ASDの学習困難の特徴は何か？」とか「ADHDの学習支援はどうすればよいか？」などの質問を受けますが、どうにも答えようがありません。同じ診断がついていても症状の表れ方に個人差があるように、学習のつまずきポイントも子どもによってバラバラだからです。それでも子どもたちをみていると、似通ったつまずき方をしていることに気づかされます。

学習は脳の働きをフル活用する作業にほかならないので、場合によっては脳機能の特性が不利に働く可能性もあります。ですから学習のつまずきを援助するには、子どもの頭の中で何がどのように起こっているのか探ることが大切です。そしてその手がかりは、診断よりも個々の症状のなかにヒントがあることが多いのです。子どもの学習支援を考える際、いったん、診断名から距離を置いてみませんか、というのが最初にお伝えしたいメッセージです。本文中の記述はDSM-5に準拠した診断名記載を基本としていますが、学習障害や読み書き障害、言語発達障害など、一般になじみの深い、そのためイメージがつかみやすい用語も使われています。診断につなげることが目的ではないからです。

本特集では、多彩な視点から脳機能と学習の関係をつかめるよう、各分野専門家の著者に、できるだけ平易で理解しやすい解説をお願いしました。ICDやDSMの診断カテゴリーにない視点も含まれています。全体をとおして理解を深めるとみえてくることも多いですが、まず興味がある項目からひもといていただいても結構です。

本特集が皆さまの学習支援のお役に立ち、子どもたちの助けになることを願ってやみません。

（藍野大学看護学部／若宮英司）

